

金沢大学考古学研究会活動報告 第2号 表紙および 目次

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-02-15 キーワード: 作成者: 金沢大学考古学研究会 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00060479

金沢大学考古学研究会活動報告

第 2 号

— 能美丘陵および

能登島の野外調査 —

1976・3

金沢大学考古学研究会

序

金沢大学考古学研究会は1969年に考古学クラブとして発足し、73年に本名称に改め今日に至っている。我々は、分布調査、発掘調査などの野外活動および参考文献等を用いての学習活動を通して、考古学を学び、歴史的視野を広めることを目的とし、埋蔵文化財保存問題にも取り組んでいる。

ここ数年の活動について概述すれば、石川県志雄町や珠洲市において横穴古墳群の発掘調査等に参加し、一昨年には同能登島町において野外調査を行なっている。また発足以来能美地区を分布調査地域として現在まで継続して調査を行なってきたが、その成果の一応のまとめとして、昨年、念願であった「活動報告第1号」を発刊し、現在、「第2号」に至っている。

本書は能美丘陵と能登島における分布調査によって得られた資料を取り上げたものである。能美地区に関しては、前号で充分あつかい得なかった個々の遺跡について再考し、75年度の新たな資料とあわせ、遺跡の相互関係、さらには能美丘陵を全体的にとらえた歴史的な流れまでも言及するよう努めた。また遺跡保存と不可分な分布調査における今後の方向性にもふれた。能登島に関しては、未発表の資料をここに紹介する機会が得られた。

本書が単に資料紹介にとどまらず、今後の遺跡保存および研究にいささかなりとも寄与することを望む次第である。

例 言

1. 本書は、75年度までの活動の一応の成果をまとめた自主報告書である。
2. 本書の編集・執筆は、すべて現在（75年度）の会員があたった。
3. 資料の整理は全員がおこない、本文作成にあたっては原案を分担執筆したのち、全員の協議により編集した。

目 次

1章 能 美 丘 陵

- | | |
|-----------------------|----|
| 1節 能美丘陵の位置・地形および歴史的環境 | 1 |
| 2節 活 動 概 要 | 2 |
| 3節 個々の遺跡の紹介 | 3 |
| 4節 能美地域の歴史的な位置について | 34 |
| 5節 能美丘陵の遺跡の現状 | 36 |
| 6節 分布調査の問題点および今後の展望 | 37 |

2章 能 登 島

- | | |
|------------------|----|
| 1節 通 り 鼻 遺 跡 | 39 |
| 2節 横穴群および能登式製塩土器 | 44 |